

農林水産大臣賞受賞

当研究所北海道支所の松浦友紀子研究員が、平成26年度若手農林水産研究者表彰（農林水産省主催）を受賞しました。これは同研究員の「ニホンシカの食品資源化に向けた衛生管理手法に関する研究」に与えられたものです。

松浦研究員は、各地で森林に大きな被害を与えているニホンシカへの対策として、有効な狩猟方法ならびに捕獲したシカの有効利用について研究を進めてきました。また、自らもハンターとして活躍し、女性ハンターグループの結成などを通じて研究成果の普及にも取り組んできました。これらの活動が高く評価され、森林総合研究所では初となる本賞の受賞に結び付いたものです。

授賞式は11月12日、東京ビッグサイトにおいて、森林総合研究所鈴木理事長をはじめとする多くの関係者が臨席する中で行われました。併せて、同日に開催されていたアグリビジネス創出フェアにおいて受賞記念講演を行いました。



表彰者らの記念写真。前列中央が松浦研究員、後列中央が鈴木理事長。

記念講演の様子

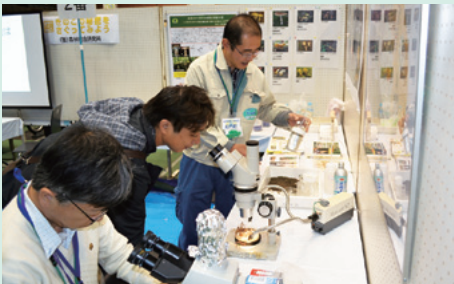


きのこをテーマに出展 つくば科学フェスティバル

11月8（土）、9（日）日の2日にわたりつくばカピオ（つくば市）で行われた第19回つくば科学フェスティバルに「きのこの秘密をさぐってみよう」とのテーマで出展しました。このフェスティバルは、つくば市内の小中学校・高校・大学、研究・教育機関など59団体が科学を楽しむための体験型イベント等を行う催しです。

来場者の目を引くきのこの生態写真や、マツの根についたマツタケの菌糸を見られる顕微鏡などを展示しました。

併せて「きのこクイズ」を開催しました。野生きのこの「秘密」の生態から栽培きのこの「常識」まで、ユーモアを交えたクイズと解説に、来場者からは驚きの声も上がっていました。クイズの成績優秀者にお渡ししたきのことともに、参加者の皆様に多くの知識をお持ち帰りいただきました。



顕微鏡でマツタケの菌糸を観察

きのこクイズの様子



アグリビジネス創出フェア ビジネスに結びつく研究成果を展示

11月12日（水）から14日（金）まで東京ビッグサイトにおいて開催された「アグリビジネス創出フェア2014（農林水産省主催）」に、当所からも4件のプレゼンテーションと6件のブース展示を行いました。

プレゼンテーションにおいては、低コスト化が期待されているコンテナ苗、シイタケ栽培における放射性セシウムリスク低減技術等、プロジェクト研究成果を中心に発表しました。ブース展示では木製単層トレイ、スギCLT、治山・緑化資材、地下流水音測定装置、空気浄化剤などの展示物を直接触れたり、音を聴いたり、香りをかいでいただきながら、最新の研究成果を説明しました。

展示ブースの様子



治山・緑化資材

研究成果発表会を開催 「地球温暖化の中で森林を活かす」

シンポジウム「地球温暖化の中で森林を活かす」を11月11日に東京大学弥生講堂において、農林水産技術会議事務局と共同で開催し、講演とパネルディスカッションを行いました。

講演は、森林が吸排出するCO₂について松本研究コーディネータが、森林への影響について高橋研究コーディネータが、そして熱帯林の役割について鷹尾資源解析研究室長が講演しました。講演後はパネルディスカッションを行い、今後の研究方向や森林を活用した対策などについて活発に意見が交換されるとともに、会場からも多くの質問が寄せられました。

温暖化対策の一つとして、発展途上国における森林の保護・増進を進めるREDDプラスについても「REDD研究開発センター」を設置して取り組んでいます。ホームページで最新の情報を発信しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/redd-rdc/ja/index.html>



発表者3名（左から松本光朗、高橋正通、鷹尾元）

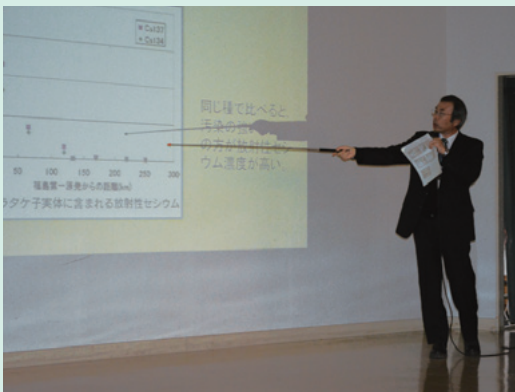
「森林と放射能について」 サイト立ち上げとシンポジウム

東京電力福島第一原子力発電所事故後、森林総合研究所では森林と放射能に関する調査・研究を進めてきました。これにより得られた情報等をお伝えするために、研究所ホームページに「森林と放射能」のポータルサイトを開設しました。放射性セシウムについて、森林への拡散や分布状況、渓流水における動態などとともに、関連サイトのリンクを掲示しています。ぜひご利用ください。

(<http://www.ffpri.affrc.go.jp/rad/index.html>)

また、12月6日に福島県青少年会館で開催された「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム（林野庁主催）」において、赤間亮夫放射性物質影響評価監が「森と木の放射能はどうなっているのかーこれまでわかったことの総合的解説ー」として研究成果の概要を報告しました。

森林総合研究所は今後も、森林と放射能についての研究成果を正しくかつ分かりやすくお伝えして参ります。



赤間評価監による報告の様子

お知らせ 国際森林デーにシンポジウムを開催します

「熱帯の森と人々、私たちの暮らし」

3月21日（土）の国際森林デーに、シンポジウムを開催します。

森林総研では、気候変動への適応や持続可能な森林管理に向けて、世界の熱帯林を対象にした研究も進めています。得られた研究成果を、国際森林デーにあわせて開催するシンポジウムでお話しいたします。開催概要は次の通りです。皆様のご来場をお待ちしております。

日時 平成27年3月21日（土）

13時30分～17時（12時30分開場）

場所 早稲田大学 小野記念講堂（東京都新宿区）

基調講演

地域の人々と作る熱帯の森

森川 靖（早稲田大学教授）

講演

梶本卓也（森林総合研究所）

浦口あや（コンサベーション・インターナショナル・ジャパン）

松本義勝（越井木材工業）

清野嘉之（森林総合研究所）

パネルディスカッション

熱帯の森と人々、私たちの暮らしの関係を考える

●参加費は無料です。

参加希望の方は、お名前、所属、連絡先（電子メールのアドレス）を左記までお送りください。

ldf2014@ffpri.affrc.go.jp

詳細は森林総合研究所ホームページ

(www.ffpri.affrc.go.jp)に掲載しております。

メール送信用QRコード



フェローのつぶやき

研究推進会議をより良い会議へ



中村 松三

一般社団法人 日本森林技術協会九州事務所
主任研究員

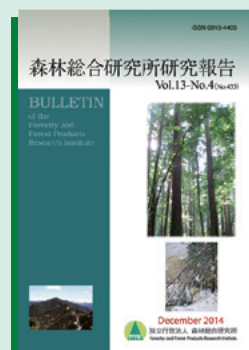
私は農林水産省実用技術開発事業でスギ再造林の低コスト化に関わるプロジェクトの研究総括を務めました。また現在は同省農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業の専門プログラムオフィサーで、森林総研を中核機関とする3つのプロジェクトを担当しています。これらの経験からプロジェクト運営に重要な研究推進会議（以下、会議）について若干つぶやきたいと思います。

年度末の2月頃に実施される会議では当年度研究成果、次年度研究計画が各課題責任者から報告され、研究総括者や外部有識者等を交えた質疑により、より良い研究推進・成果の創出に向けた議論が為されます。実は、この会議がずばり形式的になっていないかと危惧しています。半日程度の会議で、タイトな時間を気にしながらの議論では、課題間の連携や問題を掘り下げた議論等ままならず、消化不良的な感じで終わっているように思えます。

私が担当した実用化プロジェクトでは、4年間、会議を9月と2月の年2回、2日に渡って開催しました。初日の夜は懇親会を企画しましたが、これが研究者相互間の自由闊達な意見交換の場として大いに役立ちました。ちなみに、車座になってあちこちで議論できるスペースと時間制限なしの会場を確保するのがポイントです。今振りかえって見れば、この懇親会から課題間の連携や課題相互乗り入れでの共同調査等の話し合いが、また問題をお互いに解決するんだというプロジェクトの連帯感が形成されたと思います。翌日の全体討議では、前夜の車座の議論をより具体的な連携の議論へと展開できたことを覚えています。

予算や時間の制約があるでしょうが、この方法を是非試していただければと思います。

森林総合研究所研究報告



Vol.13-No.4 (通巻433号)
2014年12月発行
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/bulletin/>

論文

Google Earthを用いた野生生物観測データの地図化

平川 浩文

都市近郊造林地における人工的ギャップ形成が哺乳類の活動に与える影響

林 典子、井上 大成

研究資料

スギ在来品種の心持ち正角材における高温乾燥で生じた内部割れと木口割れの変動 (英文)

山下 香菜、平川 泰彦、齋藤 周逸、池田 元吉、中谷 浩、太田 正光

札幌森林気象試験地の気象 (1999~2008年)

溝口 康子、山野井 克己、北村 兼三、中井 裕一郎、鈴木 寛

定山溪森林水試験地観測報告 (2008年1月~2012年12月)

阿部 俊夫、山野井 克己、溝口 康子、北村 兼三

平成18~22年度に調査した収獲試験地等固定試験地の経年成長データ (収獲試験報告 第25号)

細田 和男、家原 敏郎、鷹尾 元、西園 朋広、高橋 興明、石橋 聡、高橋 正義、古家 直行、小谷 英司、田中 邦宏、平田 泰雅、光田 靖

北原 文章、近藤 洋史、齋藤 英樹、佐野 真琴

森林総合研究所多摩森林科学園の穿孔性甲虫類 (鞘翅目ホソカミキリムシ科・カミキリムシ科・タマムシ科・キクイムシ科)

松本 和馬、横原 寛、栗原 隆、後藤 秀章、永野 裕

十日程における冬の気象および雪質の調査資料 (8) (2009/10年~2013/14年5冬期)

竹内 由香里、遠藤 八十一、庭野 昭一、村上 茂樹

編集後記

地球温暖化は、メカニズムが複雑なうえ、即効性が高い対策がほとんどありません。このため、大事なことだけれどもよくわからないとの声を耳にします。今回の特集が温暖化の理解に少しでもお役にたてば幸いです。

季節感があるサクラとウグイスの研究をご紹介しました。花見の際や、ウグイスの鳴き声を聞いた時などに、当研究所を思い出していただければ大変うれしく思います。サクラに興味を持たれましたら是非、多摩森林科学園(東京都八王子市)までおいで下さい。多くの品種を展示しており、「百聞は一見にしかず」を御体験いただけます。

(企画部 研究情報科 森澤 猛)

編集委員：小泉透 市田憲(認定NPO法人 才の木) 森澤猛 辻祐司 野畑直城 高梨聡 浦野忠久 高野麻理子 高麗秀昭 田中亘

表紙の写真：温暖化の影響をモニタリングしている白神山地のブナ林

裏表紙の写真：温暖化によって生育域が狭まる高山帯のハイマツ林